

表3 各研究の長所・短所

著者	デザイン	長所	短所
Rogers	介入研究(後方視的)	合併症、診断の遅れ、誤診など臨床上の結果が記載	時間短縮だけでなく、脳外科や整形外科患者の診療件数が減少
Landrigan	介入研究(前方視的) (無作為割付)	医療ミスの件数、患者数、医師数が記載	
Davydov	記述的研究(前方視的)	処方ミスの件数が記載	体内時計(サーカディアンリズム)を考慮していない
Balit	介入研究(後方視的)	母体と新生児の臨床上的結果が記載	関与した医師の数が未記載
Baldwin	観察研究(横断研究)	詳細を記載	診療科ごとの検討がされていない
Lee	介入研究(前方視的) (無作為クロスオーバー)	医療ミスの件数が記載	サンプル数が小さい
Mann	介入研究(前方視的)	診断ミス(研修医と指導医の診断の食い違い)が記載	患者の基礎的な病状が未記載